

飯倉B遺跡2

—飯倉B遺跡第3次調査の報告—

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1306集

2017

福岡市教育委員会

飯倉 B 遺跡 2

－飯倉 B 遺跡第3次調査の報告－

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1306集



遺跡番号 IKR-B-3
調査番号 1512

2017

福岡市教育委員会

序

海に開かれたアジアの交流拠点都市づくりを進めてきた福岡市は、大陸文化の受入口として古来より繁栄してきました。市内には貴重な文化遺産が数多く残されています。それらを保護し、後世に伝えることは私たちの義務であります。

本市においては、各種開発事業によって、やむを得ず失われる埋蔵文化財については発掘調査を実施し、記録保存によって後世に伝えるよう努めています。

飯倉B遺跡が所在する早良区飯倉は丘陵地域ではありますが、都心に近い住宅街として、古くから開発が行われ、都市化が進んでいる地域です。

本書は、個人の住宅建設に先立って、平成27年度に実施した飯倉B遺跡第3次調査の成果を報告するものです。狭い範囲の調査でしたが、弥生時代後期の遺物が多量に廃棄されていた溝などを検出し、一帯に弥生時代の集落が存在することが確認できました。

本書が、市民の皆様の文化財保護に対するご理解の一助となるとともに、学術研究、文化財保護の普及啓発活動に活用していただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、土地所有者様、施工業者の皆様をはじめ、関係各位のご協力にたいして、厚く感謝の意を表します。

平成29年3月27日

福岡市教育委員会

教育長 星子 明夫

例 言

- (1) 本書は、福岡市教育委員会が平成27(2015)年度に、福岡市早良区飯倉5丁目150番2、150番7で個人住宅建設に伴って、国庫補助事業として実施した発掘調査の報告書である。
- (2) 発掘調査は上記の主体により行われ、調査の担当は山崎龍雄が行った。
- (3) 遺構実測と遺物実測は山崎が行い、出土遺物の整理・収蔵作業については萩尾朱美が行い、古賀美江の協力を受けた。
- (4) 遺構・遺物の撮影は山崎が行った。
- (5) 本書に使用した図面の墨書きは山崎が行った。
- (6) 本書に使用した方位は磁北であり、真北から6°18'西偏する。
- (7) 土層・遺物の色調の表記については新版標準土色帖に基づいている。
- (8) 調査に係る記録類・出土遺物は埋蔵文化財センターで収蔵保管し、活用していく予定である。
- (9) 本書の執筆・編集は山崎が行った。

飯倉B遺跡第3次調査情報

遺跡略号	調査番号	調査地番	申請面積	調査面積	調査原因	調査期間	調査担当
IKR-B-3	1512	福岡市早良区飯倉5丁目150番2・7	168.32m ²	51m ²	専用住宅建設	2015.06.22 ～07.09	山崎龍雄

本文目次

Iはじめ	1
1. 調査に至る経緯	1
2. 調査の組織	1
II遺跡の立地と歴史的環境	2
III調査の記録	4
1. 調査の概要	4
2. 遺構と遺物	4
3.まとめ	10

挿図目次

Fig.1 調査区周辺位置図 (1/6,000)	2
Fig.2 調査区周辺の遺跡 (1/25,000)	3
Fig.3 作業風景（東から）	4
Fig.4 遺構全体図 (1/100)	5
Fig.5 SD17と調査区土層 (1/50)	6
Fig.6 SD17出土遺物 I (1/4・1/5)	7
Fig.7 SD17出土遺物 II (1/4・1/5)	8
Fig.8 SD17出土遺物 III (1/4・2/3)	9
Fig.9 SP01遺物出土状況	9
Fig.10 各ピット遺物 (1/4)	9

図版目次

PL.1 (1) 調査区周辺の状況（東から） (2) 調査区南側全景（東から）	11
PL.2 (1) SD17検出状況（南西から） (2) SD17完掘状況（北東から）	12
PL.3 (1) 調査区北側全景（東から） (2) 調査区北側土層状況（南から）	13
PL.4 (1) SD17南壁土層（北から） (2) SD17遺物出土状況 (3) SD17遺物出土状況 (4) SD17南西壁際遺物出土状況（北東から） (5) SD17出土遺物（縮尺不統一）	14
PL.5 SD17出土遺物、ピット出土遺物（縮尺不統一）	15

I はじめに

1. 調査に至る経緯

福岡市教育委員会は同市早良区飯倉 5 丁目 150 番 2、150 番 7 に専用住宅建設の為の埋蔵文化財の有無についての照会（事前審査番号 27-2-201）を平成 27（2015）年 5 月 28 日付けで受理した。これを受けて埋蔵文化財調査課（現埋蔵文化財課）は、申請地が周知の埋蔵文化財包蔵地の飯倉 B 遺跡に含まれていることから、確認調査を実施した。現地表下約 60 cm で遺構を確認し、遺構の保全などについて事業主と協議を行った。その結果、埋蔵文化財への影響が回避できないことから、建物建設部分について記録保存のための発掘調査を実施することで合意した。調査は個人住宅建設であるため、国庫補助金を適用し同年 6 月 22 日から 7 月 9 日まで実施し、翌平成 28 年度に資料整理および報告書作成を行った。

2. 調査の組織

調査主体 福岡市教育委員会（発掘調査：平成 27 年度、資料整理・報告書作成：平成 28 年度）

調査総括 経済観光文化局文化財部埋蔵文化財調査課（現・埋蔵文化財課）課長 常松幹雄

同課調査第 2 係長 榎本義嗣（27 年度）

加藤隆也（28 年度）

庶務 埋蔵文化財審査課（現・埋蔵文化財課） 管理係長 大塚紀宜（27・28 年度）

管理係 横田 忍（27・28 年度）

事前審査 埋蔵文化財審査課（現・埋蔵文化財課）事前審査係長 佐藤一郎（27・28 年度）

同課事前審査係主任文化財主事 池田祐司（27・28 年度）

同課事前審査係文化財主事 大森真衣子（27・28 年度）

調査・整理担当 埋蔵文化財調査課（現・埋蔵文化財課） 文化財主事 山崎龍雄

整理・発掘作業員 萩尾朱美、梅野真澄、西藤勝喜、辻 節子、中村秀策、松本順子、三谷明子

II 遺跡の立地と歴史的環境 (Fig. 2)

飯倉B遺跡は油山山塊から北側に高さを減じて細長く伸びる低丘陵上に立地する。標高は南側高所部が30m、北側が10mとなる。この丘陵は早良区と城南区の境をなす丘陵であるが、江戸時代までには早良郡に属する。丘陵上には飯倉A～Gの各遺跡が所在する。

この丘陵上、周辺平野部には旧石器時代からの遺跡が知られている。旧石器時代は南東側の城南区神松寺のカルメル修道院遺跡で尖頭器が発見され、縄文時代では五ヶ村遺跡や箱ノ池遺跡などが知られ、五ヶ村遺跡では縄文時代前期の遺物が採集されている。弥生時代に入ると遺跡数は増大する。丘陵上の各遺跡で弥生時代遺構が確認される。地区の東別丘陵上では田島B遺跡、別府遺跡、神松寺遺跡、カルメル修道院内遺跡があり、西側では原東遺跡、原遺跡、有田遺跡群などがあり、各遺跡で甕棺墓などの墳墓が見つかっている。北側海岸砂丘部には藤崎遺跡、西新町遺跡などがある。西新町遺跡では、弥生時代後期頃の朝鮮半島系の遺物が多量に出土している。飯倉丘陵の飯倉唐木遺跡（飯倉C遺跡第2次調査）（註1）で前期～中期の甕棺墓など墳墓が調査され、細形銅劍・鉄刀などが副葬されて出土している。古墳時代は丘陵上に古墳が築かれ、前期の干限古墳（註2）など一部の古墳で調査が行われている。周辺には前方後方墳の京ノ隈古墳、後期の前方後円墳の梅林古墳などがある。

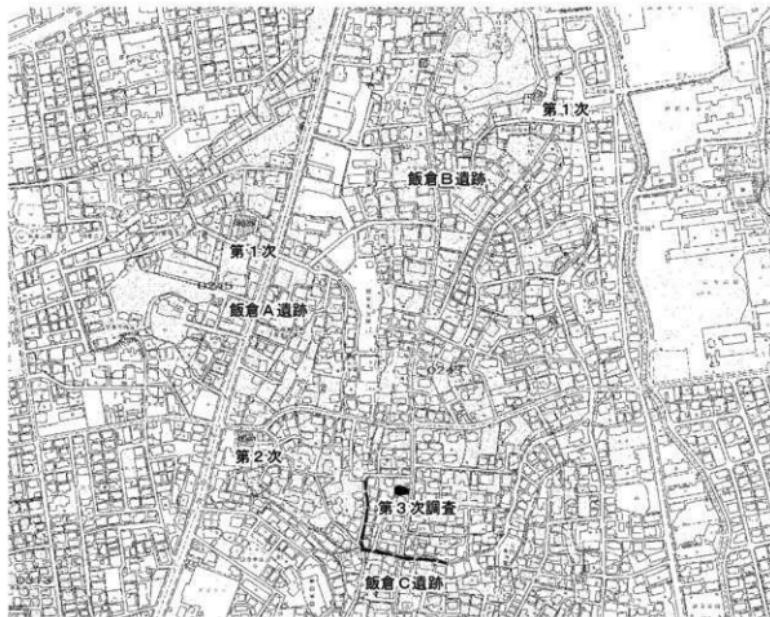
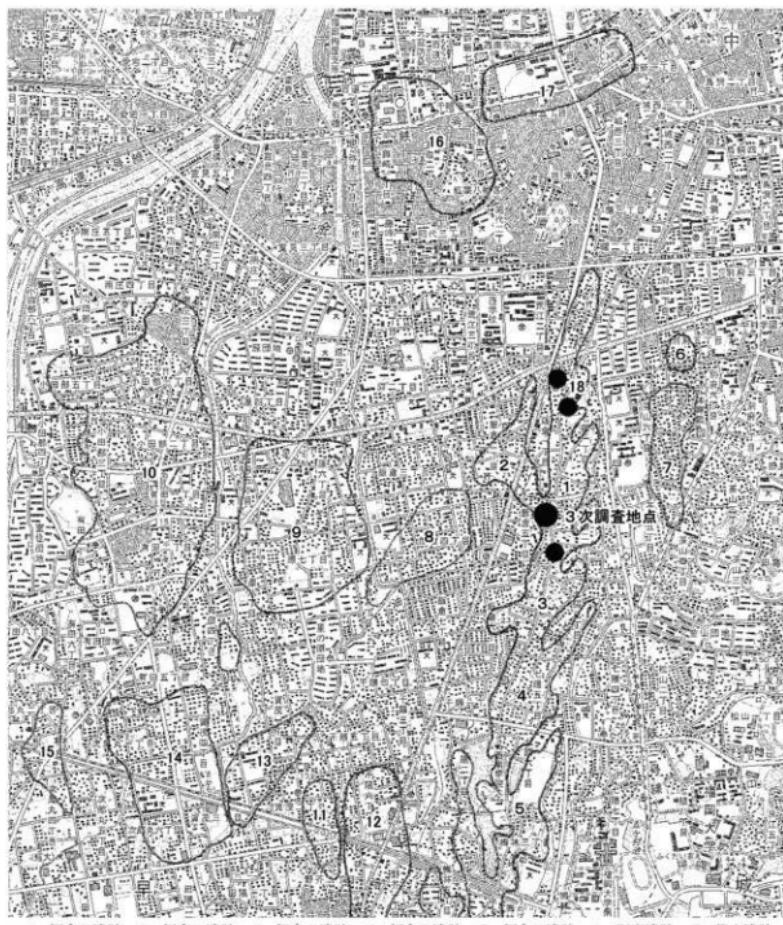


Fig. 1 調査区周辺位置図 (1/6,000)

丘陵南側の七隈では後期の群集墳も造営されている。古代は丘陵北側を西海道が通り、中世以降は平野部に集落が展開していく。

註1 福岡市教育委員会 1994『飯倉唐木遺跡』福岡市埋蔵文化財調査報告書第387集

註2 井沢洋一編 1985『千隈古墳』千隈遺跡調査会



1. 飯倉B遺跡 2. 飯倉A遺跡 3. 飯倉C遺跡 4. 飯倉D遺跡 5. 飯倉E遺跡 6. 別府遺跡 7. 茶山遺跡
8. 原東遺跡 9. 原遺跡 10. 有田遺跡群 11. 野芥大歳遺跡 12. 野芥遺跡 13. 免遺跡 14. 次郎丸高石遺跡
15. 次郎丸遺跡 16. 藤崎遺跡 17. 西新町遺跡 18. 飯倉古墳群

Fig.2 調査区周辺の遺跡 (1/25,000)

III 調査の記録

1. 調査の概要 (Fig. 1 ~ 4, PL. 1 ~ 3)

今回の調査は個人住宅建替えに伴う調査である。地番は早良区飯倉5丁目150番2、150番7である。丘陵尾根筋に立地し、尾根筋の道路（昔の早良往還）を挟んで東側は城南区七隈2丁目となる。現地標高は約20mを測る。飯倉B遺跡は調査個所が少なく、不明な点が多いが、第1次で古墳時代後期の堅穴住居跡が1棟（註3）、第2次調査では古墳時代後期の堅穴住居跡5棟（註4）が調査されている。

調査は平成27（2015）年6月22～7月9日まで行った。調査面積は51m²である。遺構は地表下40～70cmの橙色から赤褐色粘土上面で検出した。西側は緩く傾斜し遺物を含む包含層となる。包含層上面で検出した遺構と掘下げ後検出した遺構がある。検出した遺構は溝、ビットである。

2. 遺構と遺物

① 溝状遺構 (SD)

SD17 (Fig. 5 ~ 8, PL. 2, PL. 4-(1) ~ (5), PL. 5)

調査区中央部で検出した溝。南西隅壁から東壁へ、北へ膨らんで延びる。確認規模は7.5m、溝幅は東壁際で0.2m、南西隅で1.2m、深さは東側で0.2m、南西隅で0.5mを測る。東側高所部は削平を受け、残りは悪い。西側は包含層にかかり、上面での遺構の確認は不明瞭で、最終的に包含層掘下げ後確認した。埋土は中央部土層ベルトでは東側の細いV字溝が切り合うような状況を示す。V字溝では炭化物が多く含み粘性が強い褐色粘質土から暗褐色粘質土で、V字溝に切られる部分はやや暗いオリーブ褐色粘質土で、下層は橙色粘土ブロックを含む。南西隅部の状況は上層が鈍い黄褐色粘質土、下層は黄褐色粘土で、上層に土器が多く含んでいた。中央ベルトで確認した溝の切り合いは確認できなかった。溝内には弥生後期の土器が多量に廃棄されていた。土器は主に4か所にまとまる。溝底から浮いた状況を示し、溝がある程度埋没した段階で廃棄されたものと思われる。

出土遺物 1～4は壺。1は土器群③の脚台付壺。胴部はほぼ完存。復元口径14.4cm、最大胴径18cmを測る。口縁部は表面が荒れているが、胴部内外面はやや荒れるが、細かい斜め刷毛目で、一部粗い刷毛目、外面黒斑がある。色調は鈍い黄橙色で、胎土に1～2mmの白色砂粒多く含む。2～4はいずれも大型の複合口縁壺。2・3は口縁部片。2は土器群③、3は土器群④。2は1/4片、3は1/5片。口径は復元で24.8cm、29.6cmを測る。口縁部内外面横・縦の粗い刷毛目。3は摩滅がひどく調整不明。色調は2が明黄褐色、3は橙色を呈す。胎土はいずれも1～2mmの石英・長石粒子を多く含む。2の焼成は良好。4は口縁部、胴部、底部の3片から復元。土器群③のもの。復元口径は23cm強。復元高は推定で約53cm。器壁は荒れ調整は不明。色調は鈍い黄褐色を呈し、胎土は2～3mmの石英・長石粒子を多量混入する。5～17は甕。5・6は比較的小形で外反する口縁の形態。5は土器群③内、6は土器群④内。5は1/6片、6は1/4片。復元口径は15.0cm、15.6cm。色調は橙色、鈍い橙色で、胎土は5が1～2mmの石英・長石粒子を多量混入。7は全形復元。土器群②内。復元口径



Fig. 3 作業風景（東から）

18.4 cm、復元高 29.5 cmを測る。胴部内面粗い刷毛目。胴部外面は二次被熱で赤変する。胎土は1～2 mmの石英・長石粒子混入。**8**は土器群②内の口縁部1/5片。復元口径 21.6 cmを測る。色調浅黄橙色を呈し、胎土は1～2 mmの長石・石英粒子混入。**9**は土器群②。口縁部～胴部1/3片。歪みがひどく口径約 20 cm。器壁は摩滅し調整不明だが、口唇部に黒斑・煤が付着する。色調は鈍い黄橙色で、胎土に1～2 mmの石英・長石粒子を含む。**10～12**はく字形の口縁で、いずれも土器群③出土。口径は

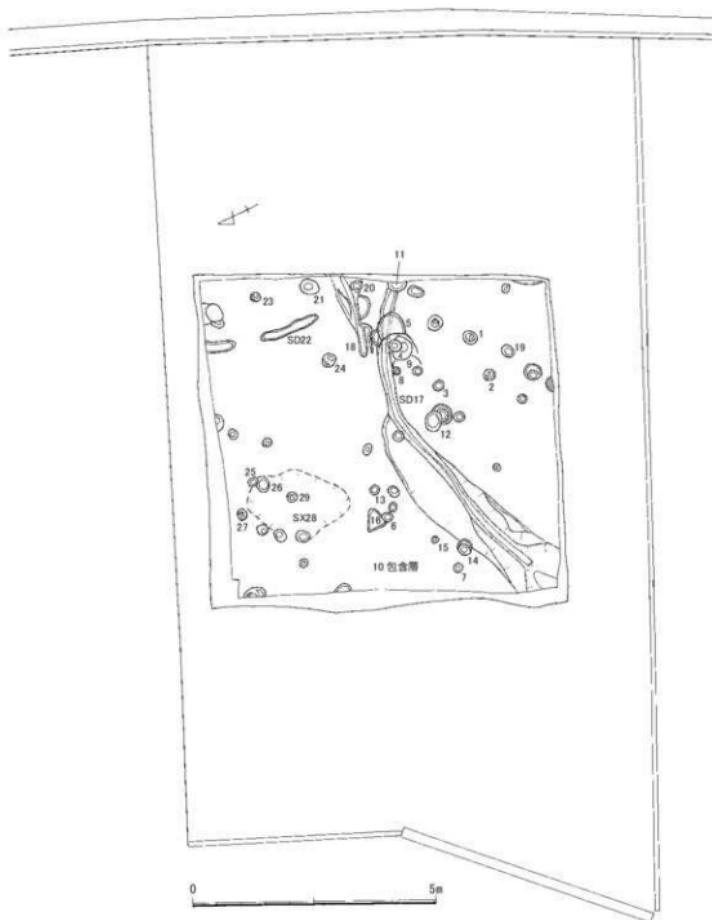
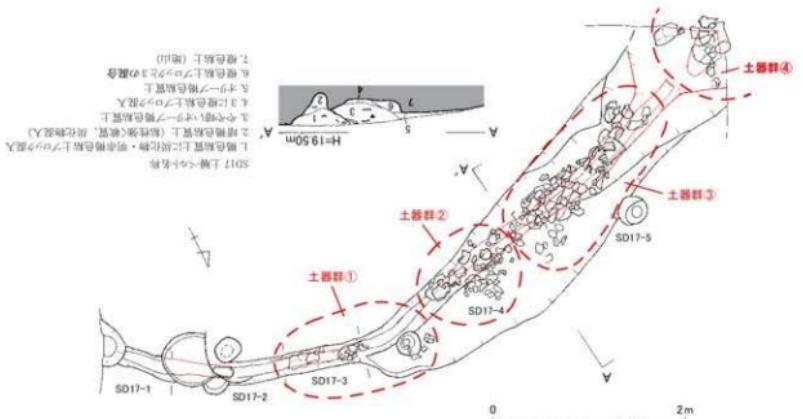


Fig. 4 遺構全体図 (1/100)



調査区南壁土層名

1. 壱上 (真砂土など)
2. 壱上 (褐色・橙色粘土ブロック)
3. 褐色粘土質土
4. 錆・褐褐色粘土質土
5. オリーブ褐色粘土
6. 褐色粘土との混合
7. 褐・黃褐色粘土に褐色粘土ブロック混入
8. 褐褐色粘土質土 (4より褐色強)
9. 木炭・灰・瓦礫混り
10. 灰色粘土 (汚れる)
11. 鮎い褐色粘土 (砂混じり)
12. 褐色粘土質土 (炭化物混り)
13. 鮎い・褐色粘土質土 (軟質)
14. 明赤褐色粘土質土で10-11ブロック葉混入
15. 黄褐色粘土
16. 黄褐色粘土質土 (4より褐色強)
- 15に近い

調査区北壁土層名

1. 壱上 (真砂土主体)
2. 煙灰 (褐色粘土ブロック)
3. 褐色粘土に橙色粘土ブロック混入
4. オリーブ褐色粘土
5. オリーブ・褐色粘土質土
6. 褐色粘土に褐色粘土ブロック混入
7. 黄褐色～オリーブ褐色粘土質土
8. 黄褐色粘土に褐色粘土ブロック混入
9. 8に灰白色粘土質土混入
10. 灰黄色粘土と細い黄褐色粘土ブロックの混合
11. 細い黄褐色粘土質土に褐色粘土ブロック混入
12. オリーブ褐色粘土質土に11を少量混入 (遺物混入)
13. 黑褐色粘土質土に11を少量化 (遺物混入)
14. 11と13の混合 (遺物混入)
15. 黑褐色粘土質土 (遺物を少量含む)
16. 橙色～鈍赤褐色粘土

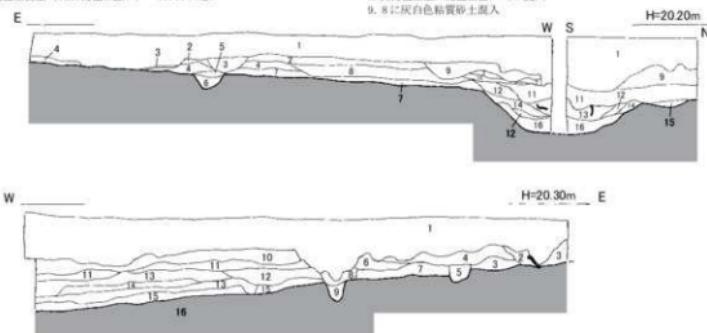


Fig. 5 SD17 と調査区土層 (1/50)

復元で 21.0 ~ 23.0 cm を測る。10 ~ 12 の口縁～胴部は刷毛目調整である。12 の内面黒斑がある。13 は土器群②。器壁は摩滅がひどく調整不明。外面は黒斑がある。色調は鈍い黄褐色～黄橙色を呈し、胎土は 1 ~ 2 mm の石英・長石粒子多く含む。11 の粒子はやや粗い。14 は土器群②。僅かに平底形の底部。器壁は摩滅し調整不明。色調は浅黄橙色を呈し、胎土は 1 ~ 2 mm の白色砂粒子多く含む。15 ~ 17 は大型の甕。15 は土器群③出土。大型の甕口縁部片。復元口径 41.2 cm を測る。頭部に貼付の三角凸帯が巡る。外面口縁直下に斜めの粗い刷毛目 (工具痕?) がある。外面摩滅が進むがナデ。色調は鈍い褐色を呈し、胎土は 1 ~ 2 mm の石英・長石粒子多く混入。焼成は良好。16 は土器群③出土。

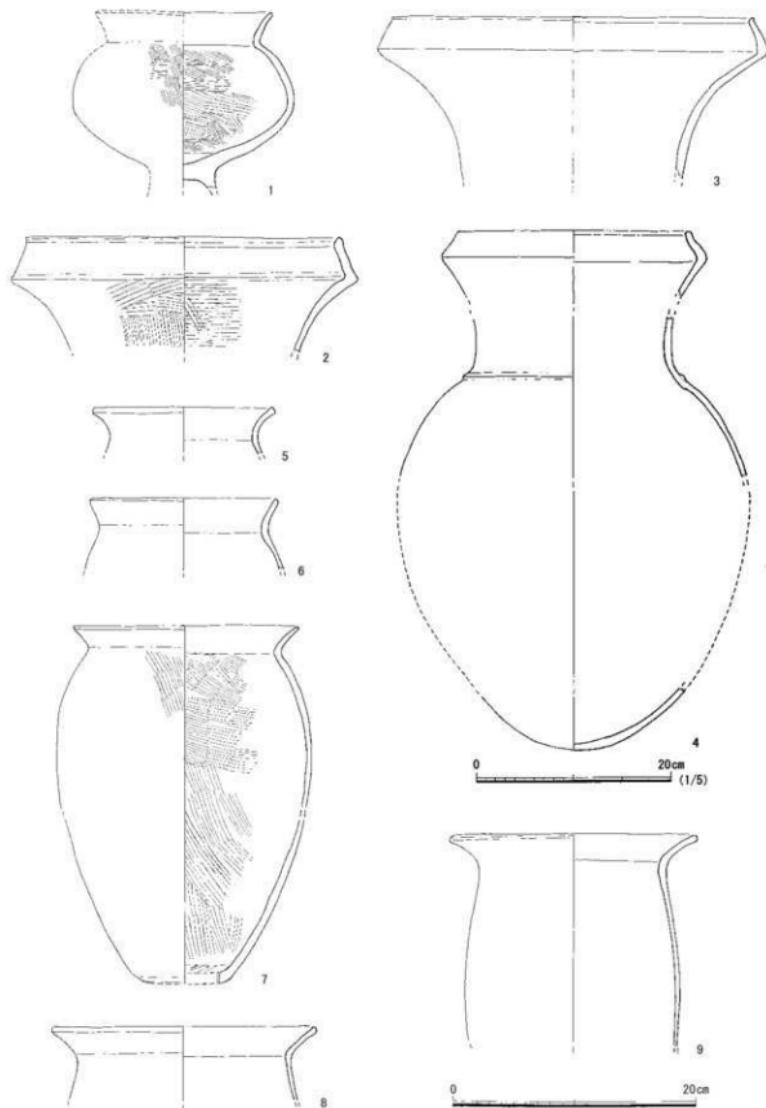


Fig. 6 SD17 出土遺物 I (1/4・4 は 1/5)

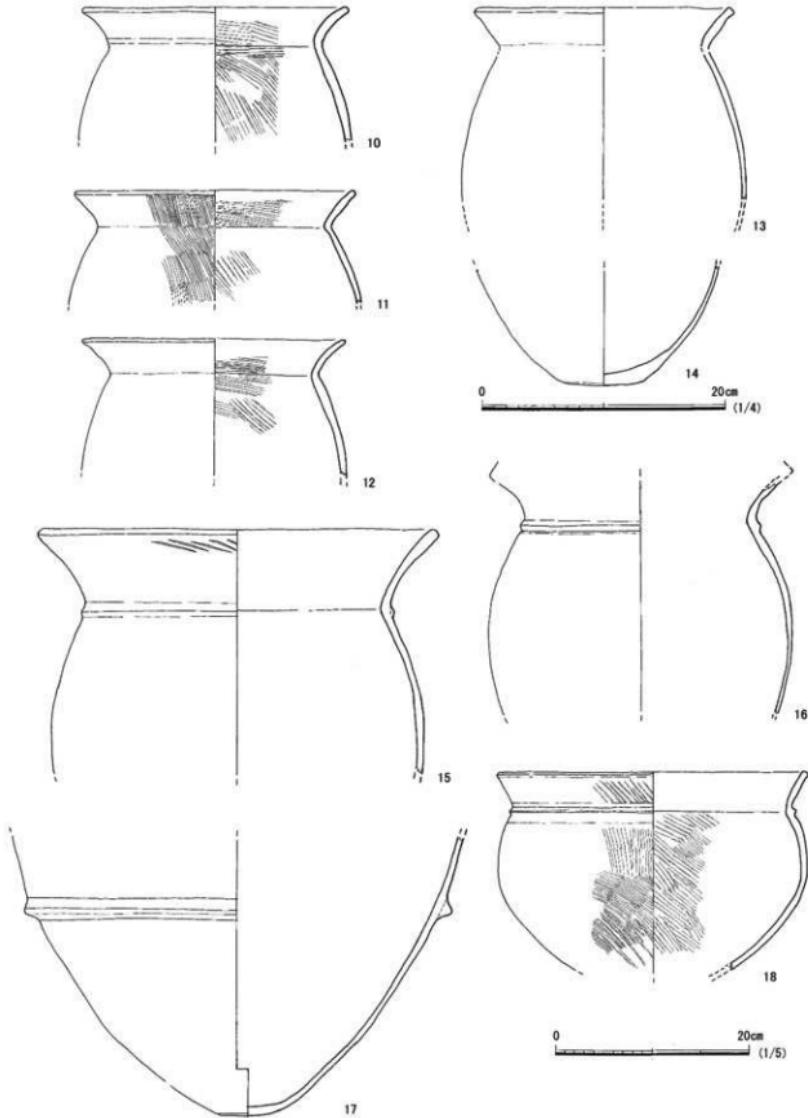


Fig. 7 SD17 出土遺物 II (10 ~ 14 は 1/4・15 ~ 18 は 1/5)

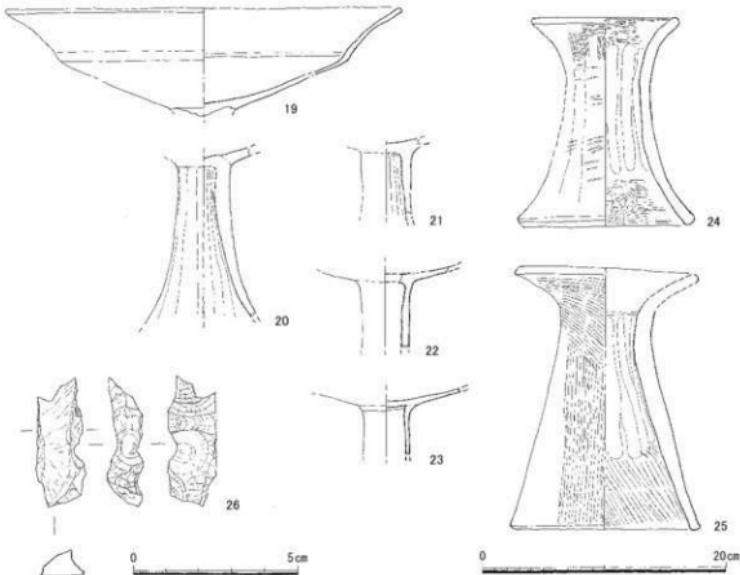


Fig. 8 SD17 出土遺物III (1/4・26は2/3)



Fig. 9 SP01 遺物出土状況

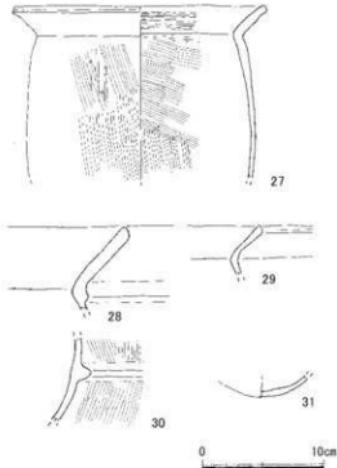


Fig. 10 各ピット遺物 (1/4)

口縁が複合口縁を呈すと思われる甕頭部から胴部 1/4 片。最大胴径 31.2 cm を測る。頭部に三角凸帯が巡る。器壁は摩滅し調整不明。色調は鈍い黄橙色を呈し、胎土は 1 ~ 2 mm の石英・長石粒子多く混入。17 は土器群③出土。甕の底部片か。下胴部に凸帯が巡る。器壁は摩滅し調整不明。色調は鈍い褐色を呈し、胎土は石英・長石粒子多く混入。18 は土器群②出土。大型の鉢 1/3 片。復元口径約 32 cm。頭部に三角凸帯が巡る。調整は口縁部から内面が粗い斜め刷毛目、胴部外面下半は細目の斜め刷毛目。色調は鈍い黄色を呈し、胎土は 1 ~ 2 mm の白色粒子多量混入。19 ~ 23 は高杯。19・20 は土器群④出土。19 は杯部 1/8 片。復元口径 32.6 cm を測る。口縁と底部片より合成。薄手の造り。器壁は摩滅し調整は不明。色調は橙色を呈し、胎土は 1 mm 内外の砂粒を少量混入。焼成はやや不良。20 は脚部。器壁は摩滅し調整は不明だが、内面しづり痕が残る。色調は橙色を呈し、胎土は 1 ~ 2 mm の石英・長石粒子多く混入。21 ~ 23 は杯底部から脚筒部片。21 は土器群①。22 は溝中央部。23 は土器群③。いずれも器壁は摩滅し調整不明。色調は 21 が鈍い褐色、22 が明褐色、23 は橙色を呈す。胎土はいずれも精良。焼成は 22 がやや不良。24・25 は器台。24 は土器群③、25 は土器群④出土。いずれも欠損はあるが全体が残る。口径は 24 が 12.0 cm、25 が 14.0 cm、器高は 24 が 17.2 cm、25 が 21.7 cm を測る。調整は、24 は外面口縁部刷毛目で下半はタタキ後ナデ消し、25 は縦横刷毛目でくびれ部は斜めのタタキか粗い刷毛目。24 の内面は口縁内と脚裾は横刷毛目、25 の口縁内は摩滅し不明、裾部は斜め刷毛目、いずれもくびれた頭部内面には絞り痕が残る。色調は鈍い黄橙色・鈍い橙色で、胎土に 1 ~ 2 mm の石英・長石粒子多く混入。焼成はいずれも良好。26 は溝下層出土。灰白色を呈す黒曜石削片で、姫島産のもの。全長 4.0 cm、幅 1.6 cm を測る。一部に二次調整痕がある。風化が進み、弥生時代以前、縄文時代頃のものか。

② ピット出土遺物 (SP)

SP01 (Fig. 9・10, PL. 5) 直径 30 cm、最大深 25 cm のピット。Fig. 9 のように底から土器が出土した。根固め用とも思われるが、建物柱穴としては不明。27 ~ 29 は弥生時代後期の甕片。27 は口縁から胴部 1/4 片。復元口径 20.8 cm を測る。調整は内外面刷毛目。色調は鈍い褐色を呈す。28・29 は口縁部小片。28 の頭部には 1 条の凸帯が巡る。調整はいずれも摩滅し不明。色調は橙色を呈す。30 は下胴部小片。1 条の凸帯が付く。外面粗い刷毛目。色調は赤褐色を呈し、胎土は 27 ~ 30 まで 1 ~ 2 mm の石英・長石粒子多く含む。

SP03 (Fig. 10) 31 は底部片。僅かに平底で弥生時代後期後半～末頃のものか。器壁は摩滅し調整は不明。色調は鈍い黄橙色を呈す。

3.まとめ

今回確認した溝は弥生時代後期後半～末頃の遺物を含む。調査例が少ない飯倉 B 遺跡で初めての弥生時代の遺構である。この遺構の性格であるが、丘陵尾根を切断して下るような溝で、集落を画する溝の可能性や、墳墓の周溝の可能性もあるが、狭い調査区のため不明である。遺物が多量に廃棄されていた状況は近くに生活域がある状況を示す。今後の周辺の調査に期待したい。

註 3 福岡市教育委員会 2003 「飯倉 B 遺跡第 1 次調査報告」『福岡市文化財年報』Vol. 16

註 4 福岡市教育委員会 2004 「飯倉 B 遺跡 - 第 2 次調査報告 -」福岡市埋蔵文化財調査報告書第 785 集



(1) 調査区周辺の状況（東から）



(2) 調査区南側全景（東から）



(1) SD17 検出状況（南西から）



(2) SD17 完掘状況（北東から）



(1) 調査区北側全景（東から）



(2) 調査区北側土層状況（南から）



(1) SD17 南壁土層（北から）



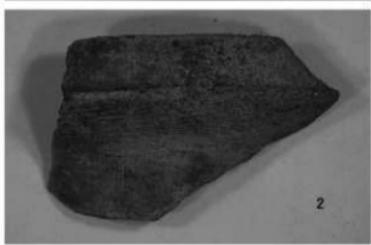
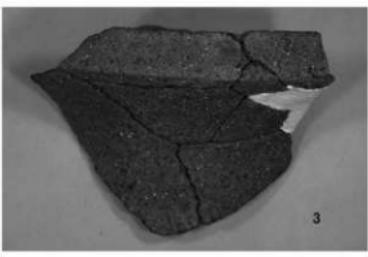
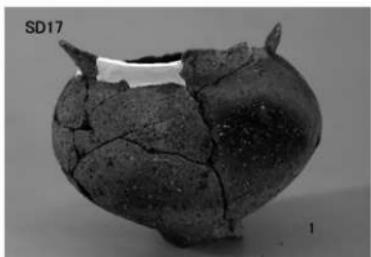
(2) SD17 遺物出土状況



(3) SD17 遺物出土状況



(4) SD17 南西壁際遺物出土状況（北東から）



(5) SD17 出土遺物（縮尺不統一）



SD17 出土遺物、ピット出土遺物（縮尺不統一）

報告書抄録

ふりがな	いいぐらB						
書名	飯倉B遺跡2						
副書名	飯倉B遺跡第3次調査の報告						
卷次	2						
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書						
シリーズ番号	1306						
編著者名	山崎龍雄						
編集機関	福岡市教育委員会						
所在地	〒810-8621 福岡市中央区天神1丁目8-1 TEL092-711-4667						
発行年月日	西暦 2017年3月27日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
いいぐらB遺跡 第3次調査	ふくおかしりょうじついいくぐら 福岡市早良区飯倉 5丁目150番2・7	40137	0243	33°33'48"	130°21'25" 20150622 ~ 0709	51.00	専用住宅
所収遺跡名	種別	主な時代	主な構造	主な遺物	特記事項		
いいぐらB遺跡 第3次調査	集落	弥生時代後期	溝・ピット	弥生土器			
要約	丘陵尾根部から西斜面部を下る弥生時代後期～末頃溝の一部を検出。						

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1306集

飯倉B遺跡2

—飯倉B遺跡第3次調査の報告—

平成29年3月27日

発行 福岡市教育委員会
 福岡県福岡市中央区天神1丁目8番1号

印刷 株式会社九州カスタム印刷
 福岡県福岡市博多区東比恵3丁目16-15